

## 第三者による総括・ご意見

令和7年3月27日

|          |                             |
|----------|-----------------------------|
| 担当者氏名・所属 | 春原るみ氏(長野保健医療大学教授)           |
| 担当者氏名・所属 | 丸山香里氏(長野市手をつなぐ育成会会長)        |
| 担当者氏名・所属 | 社会福祉法人長野いのちの電話(常務執行理事 事務局長) |

●にじいろキッズらいふの実践は、地域において高い評価を受けており、本日の説明を通じてその取り組みの素晴らしさを深く理解しました。特に、地域住民への働きかけを通じて、地域全体の理解を広げている点は非常に素晴らしいと感じました。一方で、支援に繋がっていない子どもたちへのアプローチは今後の課題であると感じました。また、にじいろキッズらいふで培われた専門性を、他の児童発達支援施設とも共有していくことで、地域全体の支援体制がより一層強化されるのではないかと考えます。

●私たち親にとって、子どもが地域でどのように生きていくのか、特に親亡き後の生活は常に大きな不安です。そんな中、にじいろキッズらいふさんが小さな時から子どもの良いところを見つけ、課題にも共に取り組んでくださることは、私たちにとって心の支えとなっています。さらに、児童発達支援だけでなく、地域の保育園、幼稚園、学校への働きかけを通じて、子どもたちが地域に受け入れられるよう尽力されていることに深く感銘を受けました。これらの取り組みについて詳しく教えていただき、私たちもできることを一緒に行きたいと強く思いました。

●長野県における10代の自殺率の高さは深刻な問題です。お話を伺う中で、特性が明確な子どもたちへの支援は進んでいる一方で、地域の中で支援を必要とする子どもたちが、「学校に行くこと、普通であること」を強く求められる傾向が強く、これが長野県の地域特性であると感じました。他県では、学校に行かない選択肢も受け入れられつつある中、「辛い、助けて」と言える子どもだけがケアを受けられる現状は、声を上げられない多くの子どもたちを見過ごしている可能性があります。LGBTQや発達特性など、多様な人々が共に生きる社会、多様な生き方を認め合う社会の実現に向けて、にじいろキッズらいふ様が取り組まれている活動は非常に意義深いものです。評議員会でもこの課題について議論し、地域社会に対して、機会を捉えて積極的に発信していく必要があると感じました。

～第三者の皆様へ～

評議員の皆様から賜りました貴重なご意見を真摯に受け止め、より質の高い支援を提供できるよう、職員一同努力してまいります。「こどもをまんなか」に、すべてのお子様がその子らしく、健やかに成長できる地域づくりを目指し、支援が必要なお子様に、必要な支援を必要なだけ届けられるよう、今後も地域に開かれた施設運営を心がけてまいります。お忙しい中、児童発達支援センターにじいろキッズらいふの取り組みにご理解とご協力を賜り、また温かい評価をいただきましたこと、心より感謝申し上げます。